

1993年から2002年までの足掛け10年間、南米最南端からアラスカ、シベリアを経由してアフリカまで近代的動力を使わずに、自分の腕力と脚力、そしてかつて旅先で利用していた動物（馬、犬、ラクダ、トナカイ）も使って移動した。

パタゴニアではビーグル水道とマゼラン海峡をシーカヤックで、パタゴニア南部氷床は氷河にとりつくまではシーカヤックでアルゼンチン湖を漕ぎ、氷床は徒歩やスキーで縦断した。

その後、アタカマ高地とボリビアはウユニ塩湖も含めて自転車で縦断した。ボリビアとペルーの国境にあるチチカカ湖はシーカヤックで横断後、コロンビアまで自転車を使った。

コロンビアとパナマの国境地帯に広がるダリエン地峡は、当時もっとも治安の悪い地域だった。そこは組み立て式のカヤックで川をさかのぼり、そのカヤックを担いで分水嶺を越え、途中で国境も越えた。

中央アメリカ、メキシコ、アメリカ合衆国は自転車で北上、カナダ西海岸のプリンス・ルパートから南東アラスカのヘイ

ズまでの800kmをシーカヤックで移動した。アラスカのユーコン川はカヤックで、東部は自転車で、最後の新大陸最西端のウェールズまでは犬ぞりを使った。

ベーリング海峡は凍ったときに徒歩横断しようとしたが、地球温暖化の影響で最近では凍結しないことが分かり、あらかじめセントローレンス島のエスキモーと彼らが捕鯨で使うスキンボートで渡ることにした。これはセイウチの皮を張ったエスキモーの伝統的なボートだ。逆風だが、ロシアからアラスカに向かっていい風が吹いていた。たまにアラスカからロシアに北東の風が吹くというので、風の力で進もうと何度かチャレンジしたが、いい風が吹かずあきらめた。

最終的にシーカヤックで渡ることにした。潮も速く風が吹き荒れている。一旦出たが引き返せざるを得なかった。9日間待って、なんと無風快晴になった。ベーリング海峡の最短距離は8kmだ。真ん中にある2つの島、アメリカ領のリトルダイオミード島とロシア領のビッグダイオミード島が並んでいる。二国の国境が一番近いところの幅はわずか

6kmしかない。まず、鏡のような水面をリトルダイオミード島に向かう。ここで一泊してもいいのだが、こんな天気は長く続くはずない。荒れる前に一気にユーラシア大陸最東端に向かう。少し迷走しながら、20時間漕ぎ続けて、デジネフ岬に到着した。

極北シベリアの最初の旅は犬ぞりだ。アラスカのエスキモーはすでに犬ぞりを使っていない。スノーモービルにとって代わっている。アラスカでは犬ぞりで旅をしていると、エスキモーの老人たちが懐かしそうに寄って来たものだ。ところがシベリアでは今でも重要な運搬や輸送手段だ。ボランというロシア製のスノーモービルや大型装甲車のようなベジトフォートという乗り物もあるが、犬ぞりがよく使われている。犬ぞりを始めたインチョウンという村の人口は400人だが、犬は400頭以上飼っていた。

アラスカとシベリアでは犬ぞりの利用方法が違う。アラスカでは夜に犬ぞりで走行することはないが、シベリアでは天気が良ければ、月明り、星明りで、深夜でも走行する。犬は

色を識別できないが、人間よりはるかに光の感受性は高い。

内陸部ではトナカイが活躍する。シベリアに遅れてやってきた人々は最初トナカイを狩っていたが、飼育に成功し、やがて騎乗するようになる。その後海岸部の人たちが犬ぞりを使っているのを見て、トナカイもそりを引くのではないかと試してみると、犬ぞりよりも馬力があることが分かった。犬にはたくさんの餌を与えなければならないが、トナカイはツンドラにあるトナカイゴケを自分で探して食べる。トナカイぞりに乗った時はメルヘンの世界にいるような気分になった。

ゴビやスーダンのヌビア砂漠ではラクダに乗った。砂漠ではラクダなしでは生きていけない。移動だけでなく、食肉として、糞は燃料として、また搾乳もできるからだ。

様々な移動手段を使って旅を続けてきたが、今は海に深い関心を持っている。特に船の中でもっとも原始的な竹いかだや草船だ。原始的な船で太古の人々の航海を再現したいと思っている。

1998年シベリア、プロビデニアの凍った湾内を犬ぞりで行く（写真：関野吉晴）

特集
交通手段

MESSAGE

人類の移動手段



関野吉晴
SEKINO Yoshiharu

プロフィール

1949年東京都生まれ。1975年一橋大学法学部卒業。一橋大学在学中に同大探検部を創設し、1971年アマゾン川全域を下る。その後25年間に32回、通算10年間以上にわたって南米への旅を重ねる。その間、現地での医療の必要性を感じて、横浜市立大学医学部に入学。医師（外科）となる。1993年、アフリカで誕生した人類がユーラシア大陸を渡ってアメリカ大陸にまで拡散していった約53,000kmの行程を、自らの脚力と腕力だけをたよりに遊覧する旅「グレートジャーニー」を始める。2002年2月10日タンザニア・ラエトリにゴールした。2004年7月からは「新グレートジャーニー 日本列島にやって来た人々」をスタート。「北方ルート」「南方ルート」を終え、手作りの丸木舟による4,700kmの航海「海のルート」は2011年6月13日にゴールした。1999年植村直己冒険賞受賞。2000年旅の文化賞（旅の文化研究所）受賞。現在、武蔵野美術大学教授（文化人類学）。